

第 32 回小山市地域公共交通会議 議事要旨

■開催の概要

1. 日 時：2018.06.18 14:00～15:00
2. 会 場：小山市役所本庁舎3階 大会議室北
出席者：大久保（市長）、永井、野口、高橋、大山、中島、生沼、佐藤（代理出席）、小矢島、鉢村、後藤、田熊、大江、田中、岡田、栗田、鈴木（代理出席）、中村（代理出席）、細谷、下山（代理出席）、須賀（代理出席）、大森（代理出席）、大芦（以上、委員）計 23 名
3. 議題
 - (1) 平成 29 年度運行状況について
 - (2) 小山市生活交通確保維持改善計画について
 - (3) 小山市コミュニティバス（デマンドバス）の実証運行事業に係る事業者選定公募型プロポーザルの実施について
 - (4) 道の駅線の臨時便運行について
 - (5) デマンドバス主要施設の追加について
 - (6) その他
4. 報告内容
 - (1) おーバスまつりについて
 - (2) DC に向けたおーバス運行の結果報告について

■議事要旨

（1）平成 29 年度運行状況について

- 資料 1 に基づいて事務局より説明があり、特に質疑応答はなく了承された。
- 事業全体では、収支率が若干改善している。
 - 車両の大型化を行った路線は利用者が大幅に増加している。
 - デマンドバスの利用者は路線全体で若干減少の傾向にあるが、運行の便数が減ったことにより運行経費も減少している。
 - 平成 28 年度に車両修繕経費を計上した路線については、平成 29 年度の費用は減少している。平成 29 年度に車両故障が発生した路線は経費が増加している。

（2）小山市生活交通確保維持改善計画について

- 資料 2 に基づいて事務局より説明があり、質疑応答の後、了承された。
- 本計画は、地域公共交通の維持、改善のための事業費や補助金を受けるために必要な計画であり、平成 30 年 10 月 1 日～平成 31 年 9 月 31 日の期間における事業である。
 - 6 つの基本目標と具体的な整備方針・施策を定め、実現に向けて計画を進めている。
 - 前年度の実績に対する事業評価等を行い、利用者数の増減など平成 29 年度の実績を受けて数値目標を含めた計画を見直している。
 - デマンドバスの利用者登録数の数値目標については、平成 29 年度の実績とは差があるが、今後の PR 等による改善を見込んで修正を行っていない。
 - 平成 29 年度の交付額は 7,833,000 円である。

[主な質疑応答]

(委員)

11 ページ記載の基本目標の広域連携について、詳しい説明をお願いしたい。

→(事務局)

定住自立圏構想に基づき、小山市・野木町・結城市の3つの自治体間での公共交通機関での連携を目指し、小山市～野木町間の路線バスの運行、小山市～野木町・結城市へのデマンドバスの相互乗り入れ、野木町～新市民病院間のバス運行などを議題として検討している。

(委員)

広域連携に関する協議には栃木県も参加しているのか。

→(事務局)

協議は小山市・野木町・結城市の3自治体のみで行っている。

(委員)

小山市全体における公共交通網のカバー率が100%でないのはなぜなのか。

→(事務局)

カバー率の算出方法にはいくつかあり、今回の補助金申請にあたっての基準を適用すると思川周辺や間々田西部にて空白地域が生じた。今後、100%になるように対応していく。

(3) 小山市コミュニティバス（デマンドバス）の実証運行事業に係る事業者選定公募型プロポーザルの実施について

資料3に基づいて事務局より説明があり、特に質疑応答はなく了承された。

(4) 道の駅線の臨時便運行について

資料4に基づいて事務局より説明があり、質疑応答の後、了承された。

- 栃木DCキャンペーン期間中に実施した臨時便の運行により同線の利用者が増加し、そのうち2割がいちごの里バス停への利用であったことなどを踏まえて、この臨時便をキャンペーン終了後の土日祝日、お盆・年末年始期間での運行を実施したいと考えている。
- 本会議で了承を得られれば、財政的な措置について財政課と協議の上実施したい。

[主な質疑応答]

(委員)

この臨時便は地域振興を目的としているため、収支率の改善に関わらず運行したいということか。

→(事務局)

その方向で検討している。臨時便は13人乗りのワゴン車での運行を想定しているため、収支率の改善に大きく寄与するまでには至らないと考えている。

(委員)

いちごの里のシーズンは1月～3月であるが、他のシーズンには対応しないのか。

→(事務局)

いちごのシーズンは12月からスタートし、1月から3月がピークになるので、この期間で運行を実施したい。また、いちごの里では時期を問わず来場者が楽しめるような場所として整備されているので、他のシーズンに訪れる観光客にも対応できるようにしていきたい。

(委員)

いちごの里はフルシーズン様々な果物や催事を楽しめるような施設になっているので、それらに対応した運行を検討していきたいと考えている。

(5) デマンドバス主要施設の増加

資料5に基づいて事務局及び事務局より説明があり、特に質疑応答はなく、了承された。

○公益施設として利用者の多い、絹ふれあいの里（桑絹エリア）と特別養護老人ホームひらわの郷（大谷中南部・間々田東部エリア）を、デマンドバスの主要施設として追加する。

(6) その他

委員より発言があった。

[主な質疑応答]

(委員)

以前より引き続きの申し入れになるが、バス車両の維持管理に係る負担の半分は事業者が負担している。新車導入は難しくとも中古車の活用によって対応するなど、バス運行のために事業者も努力していることを理解して頂きたい。

また、デマンドバスの予約開始時間短縮については、30分での配車を実現するとタクシーに相当する利便性になってしまう。

先ほど協議に上がった公共交通のカバー率について補足すると、小山市のコミュニティバスは既に全国と比較しても十分優れていると思う。栃木県交通政策課の担当者の意見を伺いたい。

→(委員)

ご指摘のとおり、小山市のコミュニティバスの収支率は、県平均21%のところ、40%を超えており（県内2位）、また、市町村生活交通利用1回あたり公費負担額についても、県平均712円のところ、200円程度であり（県内1位）、非常に優秀である。現行カバー率に関しては、栃木県としては平成27年度の国勢調査を活用した基礎データに基づき、バス路線から300mという定義に基づいて設定している。この定義については各自治体によって認識が異なる場合があるが、定義を変えてしまうと経年比較ができなくなってしまう。

■報告事項要旨

事務局より以下の説明がされた。

(1) おーバスまつりについて

○4月28日のおーバスまつりには、約5,000人の来場者が訪れ、盛況に開催された。

(2) DCに向けたおーバス運行の結果報告について

○栃木ゴールデンブレース試合開催日の臨時便について、休日には多くの利用者があったものの、平日の利用者数が伸び悩む結果となった。仕事帰りの方にも利用しやすい時間帯にするなど、ダイヤの見直しが必要と考えている。

○間々田駅西口～渡良瀬遊水地（生井桜づつみ）間で実施しているデマンドバスの臨時便について、ホームページやポスター等を活用してPRを行っているものの、利用者数は伸び悩んでいる。

[主な質疑応答]

(委員)

栃木ゴールデンブレースの臨時便について、平日運行便は今後どのように対応するの

か。

→(事務局)

具体的には、ダイヤを1時間遅らせることで、就業後のサラリーマンなどにも利用できるかと考えている。

(委員)

渡良瀬遊水地方面へのデマンドバス臨時便の利用が伸び悩んでいる要因は何か。

→(事務局)

臨時便のPRが十分ではないためでないかと考えているので、よりPR活動を進めていきたい。

(以 上)